

南海トラフ地震から

お客様と社員の命を守るために

～店舗で必要な防災対策～

対策の基本的な考え方

1 ゆれから命を守る

震度6弱～震度7の揺れが
2分半～3分程度続くと想定されます。

地震が来たら、まず「身の安全確保」
出口を確保・火の元の始末
声を出して安否確認、被災者の救助・救出
余震や津波に注意、避難の準備

2 津波から命を守る

高知市中央公園で最大1m～2mの津波が
60分以上で到達すると想定されます。

津波浸水予測は地域により異なります。
情報は更新されますので高知市HPで確認しましょう。

緊急避難場所へ避難

災害（津波や火事など）から命を守るため緊急的に避難するための施設や場所をいいます。このうち市があらかじめ指定した施設や場所を「指定緊急避難場所」といいます。「津波避難ビル」もこの緊急避難場所に該当します。



津波避難ビル

3 命をつなぐ

避難所生活

避難所とは災害時に自宅が倒壊した場合などに、一定期間生活を送る施設を言います。

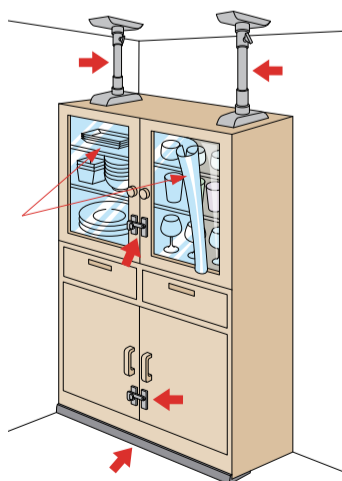
東日本大震災では、洪水・土砂災害を想定した避難所に避難して被災した事例があります。地震発生時には、まず緊急避難場所に避難してください。

被害想定をふまえた対策

1 棚・家具転倒・ガラス飛散対策はされてますか？

地震の揺れによって一番身近な危険は落下物です。まず、客席を見渡して座席より高い位置にディスプレイしてある置物や額縁などは落下の危険があります。

危険物の落下を防ぐために頭上にあるものを固定しておきましょう。又、店内の家具、什器などは倒れないように固定し、ガラスには飛散防止フィルムを貼っておきましょう。



2 非常口、通路、階段での避難スペースを確保しましょう

避難のとき、非常階段や出入口付近に物が置かれていては、素早く避難することが困難になってしまいます。過去には非常階段に物が置かれてあったことで、多くの方が犠牲になった事例もあります。テナントビルでは特に非常階段などに障害物を置かないようにしましょう。

非常口への誘導標識、誘導灯が店内のどこからでも見えるようにし、非常灯、誘導灯が点灯することを常に確認しておきましょう。

3 店舗の防火対策は充分ですか？

地震では激しい揺れだけでなく火災にも注意が必要です。事前の備えや直後の対策を徹底することで被害を大きく減らすこともできるとしています。いざというときに自分や周りの人の命を守るため、一人一人ができる対策をまとめました。

火災を防ぐ

揺れがおさまったらガスの元栓を閉めましょう。

停電が起きた際には、復旧後に損傷した家電や配線などから出火(通電火災)することもあります。停電したら家電のスイッチを切って、電源プラグはコンセントから抜きましょう。復旧してもすぐに家電を使用せず、損傷や配線に断裂などがないか確認しましょう。

避難などで不在にする場合はブレーカーを落としてください。揺れを感知して自動でブレーカーを落とす「感震ブレーカー」をあらかじめ設置しておくことにより確実に通電火災を防ぐことができます。

火災がおきたら

地震の際、焦って火を消そうとするとけがをするおそれがあります。まずは揺れがおさまるのを待ってから、焦らず対応することが大切です。

屋内で火が出たらまずはドアを開けて逃げ道を作り、大声で周囲に火事を知らせましょう。

周囲に知らせた後は、消防署への通報、周辺テナントへの伝達、店内のお客様の避難誘導のほか、もしも負傷者がいるのであれば救護も必要です。

また、出火してすぐの初期消火で被害の拡大を大幅に減らすことができる場合もあります。自分たちの手で初期消火が可能なレベルであれば、備え付けの消火器や建物内にある消火栓を使って消火活動に当たります。

初期消火の要領と注意点

一般的な消火器の放射が届く距離は概ね3~5mですので、それを念頭に置きながら身の安全を図れる範囲で徐々に火元に近づき、低い姿勢から放射しましょう。なお、初期消火が可能なレベルの目安は概ね人の背丈程度までの炎とされ、天井に届くような炎となっている場合は自力で消火できる範囲を超えたと判断して避難しましょう。

また、決して忘れてならないのは、退路を確保しながら消火活動を行うということです。運良く鎮火できればよいですが、必死の消火活動にもかかわらず燃え広がってしまった場合、火の手に行く手を阻まれ避難できなければ命に関わります。必ず出入口を背にして(つまり背後に逃げ道を用意した上で)消火を試みましょう。

なお、初期消火に要する時間は3分前後といわれています。それ以上に時間をかけても鎮火できなければ、消防隊員に任せなければならないレベルの火である可能性が高いと考えましょう。

防火対策・避難にかかる設備



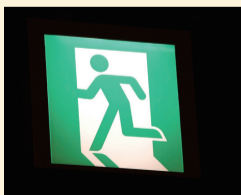
煙感知器



屋内消火栓



消火器



誘導灯

定期的な設備点検の実施

常時、適正に設備を使用できる状態の維持

定期的な訓練を通じ、社員での使用方法の習得

4

災害用トイレ・水・食料の備蓄は大丈夫？

「店舗内でお客様や社員が被災した時に必要なものは何か」という視点で考えてみましょう。

災害時水洗トイレ

水洗トイレの多くは、断水、停電、排水設備や処理施設の損傷などにより、使用できなくなります。過去の災害では、発災後、水が流れないことに気づかず多くの人が使ってしまう、便器は大小便で満杯になりました。

飲酒時はさらにトイレを利用される事が想定されますので、非常用トイレ用品を備えておきましょう。



水を流せないトイレを使用した場合。写真提供：日本トイレ研究所

非常持出品

被災した最初の1日間をしのぐために、必要最低限を備える。
 (例) 現金、食料、飲料水、救急用品、懐中電灯、ラジオ、スマートフォンの充電器、服用中の薬、ウェットティッシュ、カップなど。

5

津波から逃げるために

このマップには、津波から一時的に身を守る緊急避難場所を表示しています。緊急避難場所を決めたら、避難経路と避難にかかる時間の確認をしましょう。

避難経路について

以下のような道路(主な避難経路)をマップに記載しています。避難する際の参考としてください。



オレンジ色の線が**主な避難経路**になります。
 (幅員が比較的広く、建物倒壊などにより通行困難となる恐れが少ない道路)

避難経路に潜む危険

激しい揺れによって避難のさまたげとなる以下のような事態が想定されてます。実際に歩いてみたり、いつも何気なく通る道をイメージしたりして点検してみましょう。

道路のどこ	内容	チェック
落下物などによるケガ	ビルなどの高い建物のそばを通る(看板、ガラス、タイルなどの落下)	<input type="checkbox"/>
道が通れなくなる	古い橋がある	<input type="checkbox"/>
	道幅が狭く、古い家屋などが倒れてくる	<input type="checkbox"/>
	斜面が近く、土砂が崩れてくる	<input type="checkbox"/>
歩く速度が遅くなる	ブロック塀が倒れる	<input type="checkbox"/>
	電柱や街路樹が倒れる	<input type="checkbox"/>
	液状化により路面がでこぼこになったりマンホールが浮き上がる	<input type="checkbox"/>
	交通量が多い道路を横断する	<input type="checkbox"/>
	照明や誘導灯がない	<input type="checkbox"/>



歩道のでこぼこ



ブロック塀の倒壊



ビルの倒壊



液状化によるマンホールの浮き上がり

※写真提供：(一財)消防防災科学センター「災害写真データベース」

危険な場所☑があれば、できることから始めてみましょう。
 例えば・頭を守るものを準備(防災ずきん、ヘルメット)
 ・回り道を確認しておく

いざ地震が発生したらどう動くか

■ガラスなどから離れ、安全な場所へお客様を誘導

耐震基準を満たしている建物やそうでない建物の場合で状況は変わりますが、揺れが収まるまでは慌てて外に飛び出さずに、まずは店内の安全な場所へ避難しましょう。什器やガラスから離れ、頭を守るためにテーブルの下などへ移動しましょう。

■避難の為の出口確保

緊急地震速報が鳴った時や地震直後に近くにいるスタッフはドアを開けておくようにしましょう。

■火を消す

地震の際、調理中の場合があります。緊急地震速報が鳴った時や、地震発生直後に素早くコンロの火を消すようにしましょう。

■火災が発生していないか

揺れが収まったら火災が発生していないか確認します。火が上がっていた場合は消火活動を行いましょう。

■安否確認を行う

お客様とスタッフの中にけが人や不明者がいないか確認をします。トイレや個室に閉じ込められてないかも確認しましょう。

■けが人の対応

けが人がいれば、手当や救急車を呼ぶなどの対応をします。

■緊急避難場所への誘導

南海トラフ地震発生時は津波の恐れがあります。揺れが収まったら余震に注意し落ち着いてお客様を避難場所へ誘導しましょう。

非常口や非常階段にお客様が殺到し、将棋倒しなどの混乱が生じる場合があります。

営業継続・早期再開の計画づくり

中小企業BCP(事業継続計画)とは

東日本大震災において、中小企業の多くが貴重な人材を失ったり、設備を失ったことで、廃業に追い込まれました。また、被災の影響が少なかった企業においても、復旧が遅れ自社の製品・サービスが供給できず、その結果顧客が離れ、事業を縮小し従業員を解雇しなければならないケースも見受けられました。このように緊急事態はいつ発生するかわかりません。BCPとは、こうした緊急事態への備えのことをいいます。

BCPの基本方針(目的、基本方針、重要商品)

南海トラフ地震で想定される被害

重要商品提供のための事前対策

発災時の体制

BCPの運用